

令和4年度
中学校教育課程編成の手引
【各教科等編】

音楽科における
1人1台端末を活用した
「個別最適な学びと協働的な学び」

北海道教育委員会

音楽科における1人1台端末を活用した 「個別最適な学びと協働的な学び」 (中学校)

1 題材の概要

学 年：第2学年

題 材 名：「平調子の特徴を生かして音楽をつくろう」4時間扱い

題材の目標：平調子の構成音による音階の特徴や音のつながり方について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、まとまりのある創作表現を創意工夫しながら創作の学習活動に取り組み、音楽に対する感性を豊かにする。

2 事例におけるICT活用のポイント

- ・ ICT端末を活用することにより、自分たちの演奏や作品を録音や録画で残すなど学習履歴を蓄積し、学習の振り返りや学習成果の確認に生かすことができます。

3 使用したソフトや機能

- ・ 学習支援ソフトの共同編集機能
- ・ 学習支援ソフトのファイル共有機能

【参考資料】

- ・ 新学習指導要領に対応した学習評価 (中学校 音楽科)
(独立行政法人教職員育成機構)



音楽科における1人1台端末を活用した 「個別最適な学びと協働的な学び」 (中学校)

4 1人1台端末の活用例

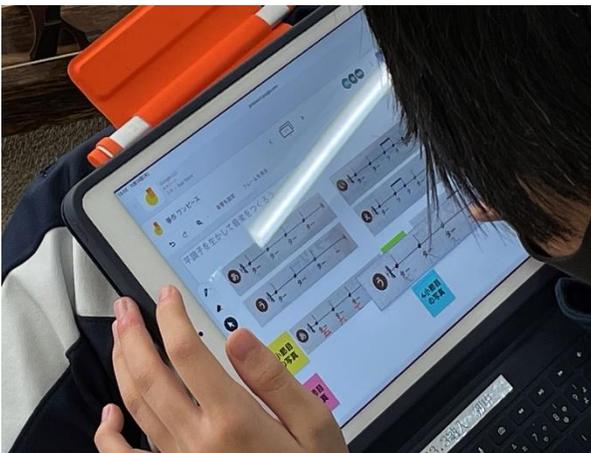
【ICTの活用場面①】



〔創作した旋律を箏で音を確認しながら活動する〕

- ・リズムカードを用いて、即興的に旋律をつくることによって、楽譜が読めなかったり、楽器を演奏することが難しい生徒も、表したいイメージに合わせて自由に音を選択して創作の活動を楽しむことができます。
- ・生徒は、創作した作品を実際に箏曲で演奏して試したり、友だちの演奏を聴いたりして、和楽器による音楽に対する感性を豊かにすることができます。

【ICTの活用場面②】



〔友だちのつくった旋律と自分がつくった旋律を組合せる〕

- ・平調子の音階に親しみながら、友だちの作品の特徴を踏まえ、表したいイメージにふさわしい旋律となるよう、それぞれの旋律を組合せながらつながりを工夫して創作活動を行うことができます。
- ・生徒は、まとまりのある作品になるように旋律をつなげたり入れ替えたりしながら試行錯誤することができます。

音楽科における1人1台端末を効果的に活用した授業改善のポイント

① 様々な感覚を関連付けて音楽を捉える場面で活用

音楽をつくる活動や音高や音量などを確認する活動の際に音楽制作ソフトや音を可視化するソフトを活用することにより、生徒は、聴覚だけでなく、視覚などの他の感覚を働かせて音や音楽を捉えることや、音楽表現を創意工夫したり、音楽を聴き深めたりすることができます。

② 学習の振り返りや学習成果を確認する場面で活用

録音・録画した自分の歌唱や演奏を再生したり、つくった音楽を再生して音で確認したりすることにより、生徒は、表したい音楽表現への見通しをもち、技能の習得過程を確認するなど、主体的に学習に取り組むことができます。

【参考資料】

- ・音楽、図画工作、美術、工芸、書道の指導におけるICTの活用について
(文部科学省)



- ・StuDX Style
各教科等における1人1台端末の活用
各教科等での活用〔中学校 音楽〕 (文部科学省)

